

伝統遊具づくり ぶんぶんごま

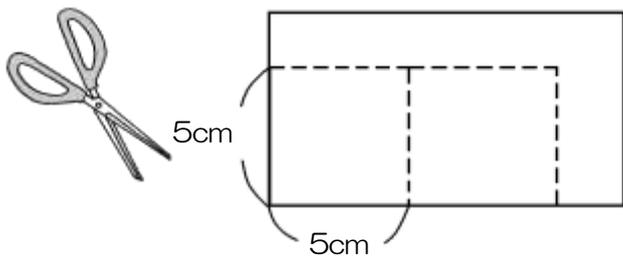
江戸時代後期頃から流行した玩具で、最初は細長い竹で作られていました。その後花形をしたものに、ちりめんや錦の貼られたものが出回りました。糸を引いた時にシュウシュウを鳴る音が松風に似ていることから、当時は松風ごまと呼ばれていました。明治以降も竹やボール紙、ボタンなどで作られ子供たちに親しまれています。

材料：工作用紙・風糸(1m)

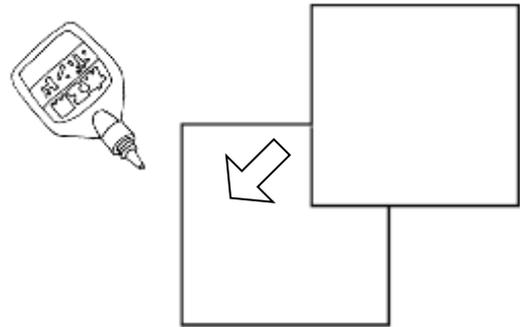
道具：はさみ・ボンド・定規・サインペン

《作り方》

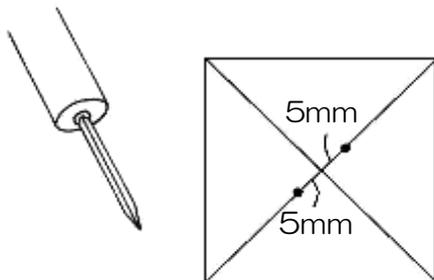
1. 一辺が5cmの正方形になるようにはさみで工作用紙を2枚切る。



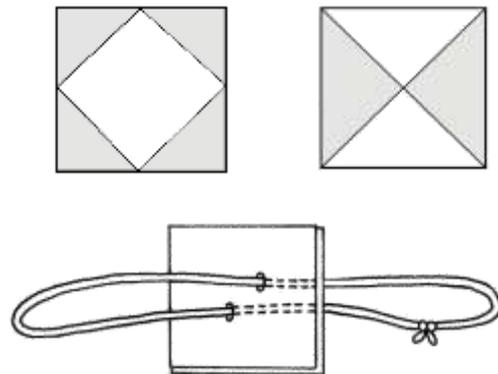
2. 工作用紙の裏にボンドを塗り2枚を貼りあわせる。



3. 定規で対角線を2本引き、中心から上下5mmのところを2ヶ所で穴をあける。



4. サインペンで工作用紙に色を塗ってから、きりであけた穴に風糸が輪になるように通し結ぶ。



《遊び方》

たこ糸を指にかけて10回くらい回します。外側に引っ張ったり、内側にゆるめると、ぶんぶん音をたてて回ります。最初は上手に回せなくても諦めず何度も挑戦してみましょう。

